

【漁況】

[マアジ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成26年は14万6千トンとなりました。

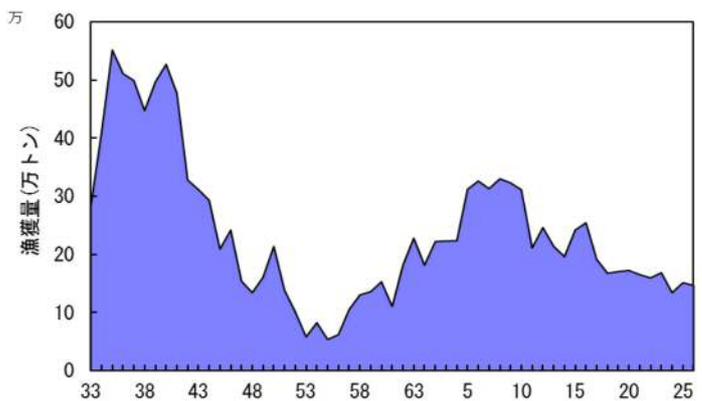


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 県内の平成28年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域では、天草沖、野間池沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、マアジ仔・豆（0歳魚：平成28年生まれ）主体に、期全体で521トンの水揚げで、前年の111%及び平年の140%となりました。

3. 県内の平成29年1～3月期の見とおし

漁獲の主体はマアジ仔・豆（1歳魚：平成28年生まれ）で、マアジ小（1, 2歳魚：平成28, 27年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年を上回り、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターン等から予測しました。

前期は0歳魚（平成28年生まれ）主体に平年を上回る漁獲があり、引き続き漁獲の継続が予測されることから、全体としては、低調であった前年を上回り、平年並と考えられます。

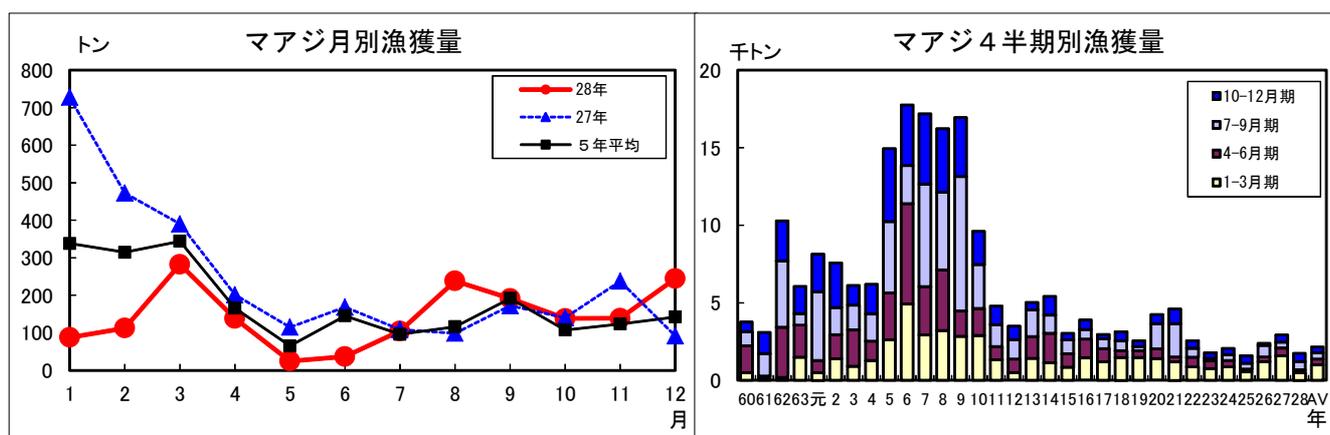


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)、平成28年12月21日までの水揚量を使用

[サバ類]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン进行ピークに年々減少し、平成3年には26万トンとなりました。

平成5年から増加に転じ平成9年には85万トンとなりましたが、平成14年には28万トンまで減少しました。

平成18年には65万トンまで増加しましたが、その後減少傾向となり、平成26年は50万2千トンとなりました。

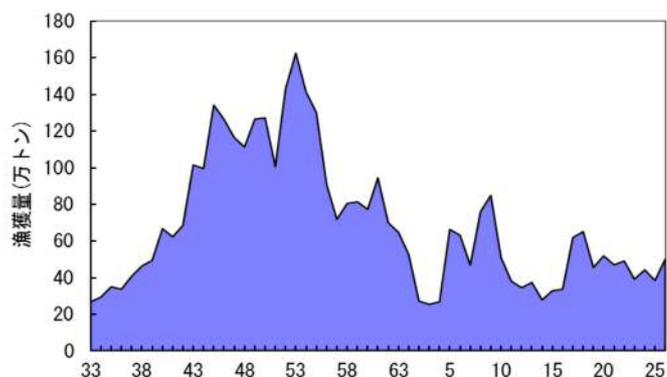


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 県内の平成28年10～12月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島周辺、天草沖で漁場が形成されました。

薩南海域では、宇治、野間池沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、ゴマサバ小（1, 2歳魚：平成27, 26年生まれ）主体に期全体で2,048トンの水揚げで、前年の68%及び平年の95%となりました。

3. 県内の平成29年1～3月期の見とおし

漁獲の主体はゴマサバ中（2, 3歳魚：平成27, 26年生まれ）で、小（1歳魚：平成28年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年並で、平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターン等から予測しました。

今年の漁獲量は、全体的に前年を下回って低調に推移しているものの、12月にゴマサバ中のある程度まとまった漁獲があり、1月以降も継続して漁獲されると見込まれることから、低調であった前年並で、平年を下回ると考えられます。

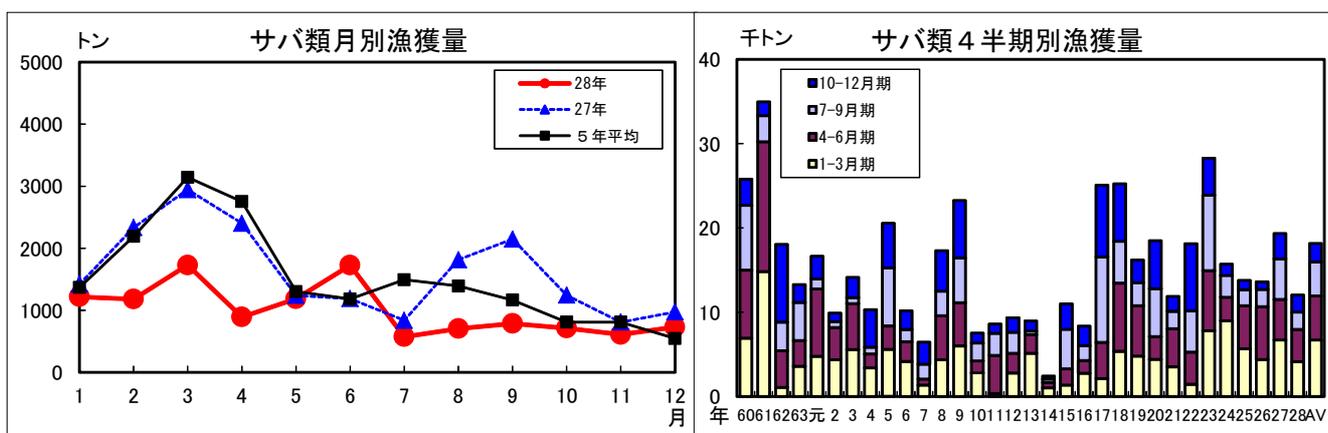


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)、平成28年12月21日までの水揚げ量を使用

[マイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

平成元年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、平成14から22年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、平成23年以降は10万トン以上に増加し、平成25年は22万トンで14年ぶりに20万トンを超える漁獲がありました。

平成26年も20万トンと前年を下回ったものの、増加傾向が続いています。

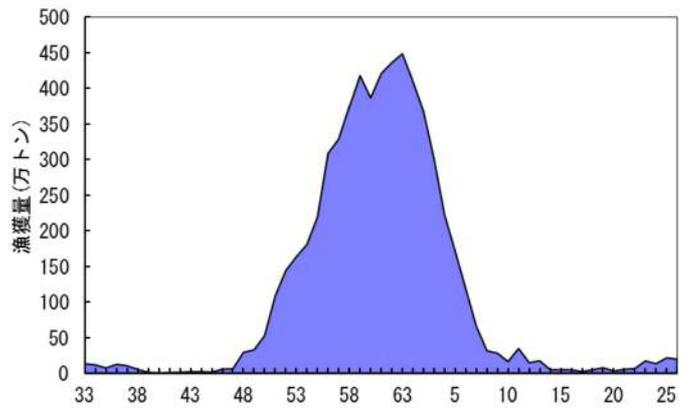


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

2. 県内の平成 28 年 10 ~ 12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、天草沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池沖で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、中羽 (0 歳魚：平成 28 年生まれ) 主体に 978 トンの水揚げで前年の 16 %、平年の 67 % でした。

北薩海域の棒受網は、27 トンの水揚げで前年の 19 %、平年の 34 % でした。

3. 県内の平成 29 年 1 ~ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽 (1 歳魚：平成 28 年生まれ) でしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる 1 歳魚 (平成 28 年生まれ) は、9 月以降前年・平年を下回る漁獲が続いているため、来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

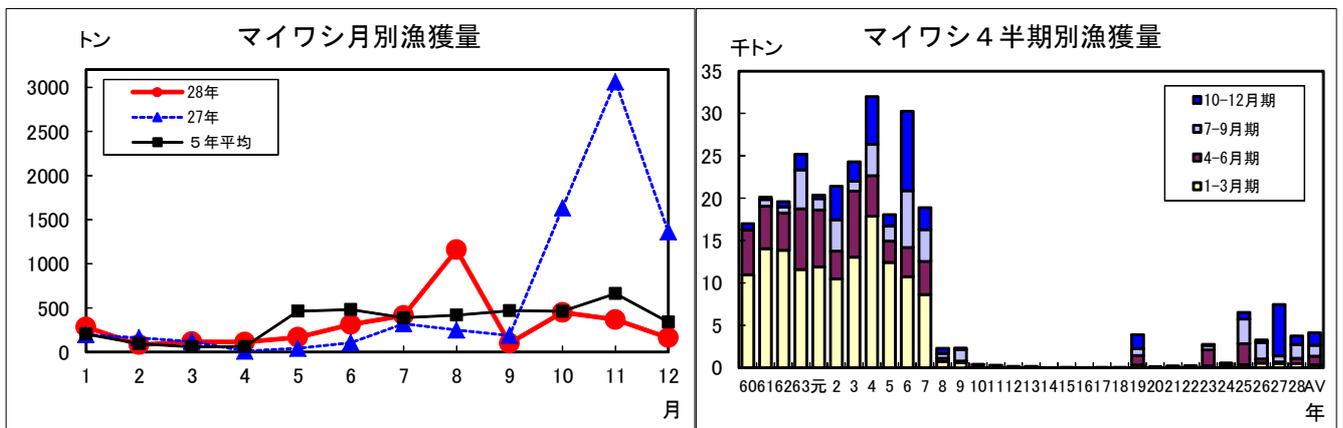


図 マイワシまき網漁獲量変化 (4 港計)

※平年値は過去 5 年 (平成 23 ~ 27 年) の平均値 (AV), 平成 28 年 12 月 21 日までの水揚量を使用

[ウルメイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ平成12年には2万4千トンまで減少しました。

平成15年以降は再度増加傾向に転じ、平成25年は8万9千トンで昭和33年以降では最高の漁獲量となりました。

平成26年は7万5千トンと前年を下回ったものの、高い水準を維持しています。

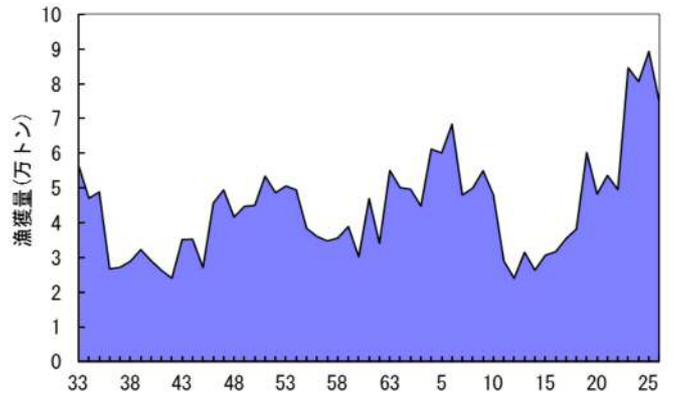


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

年

2. 県内の平成 28 年 10 ～ 12 月期の漁況の経過

北薩海域のまき網では、天草沖，阿久根沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池沖，津倉で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、中羽（1 歳魚：平成 27 年生まれ）主体に 2,869 トンの水揚で前年の 48%，平年の 101%でした。

北薩海域の棒受網では、687 トンの水揚で前年の 85%，平年の 134%でした。

3. 県内の平成 29 年 1 ～ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽（1 歳魚：平成 28 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年を下回り、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる 1 歳魚（平成 28 年生まれ）は、前期まで平年並で推移しており、来遊量は好調だった前年を下回るものの、平年並と考えられます。

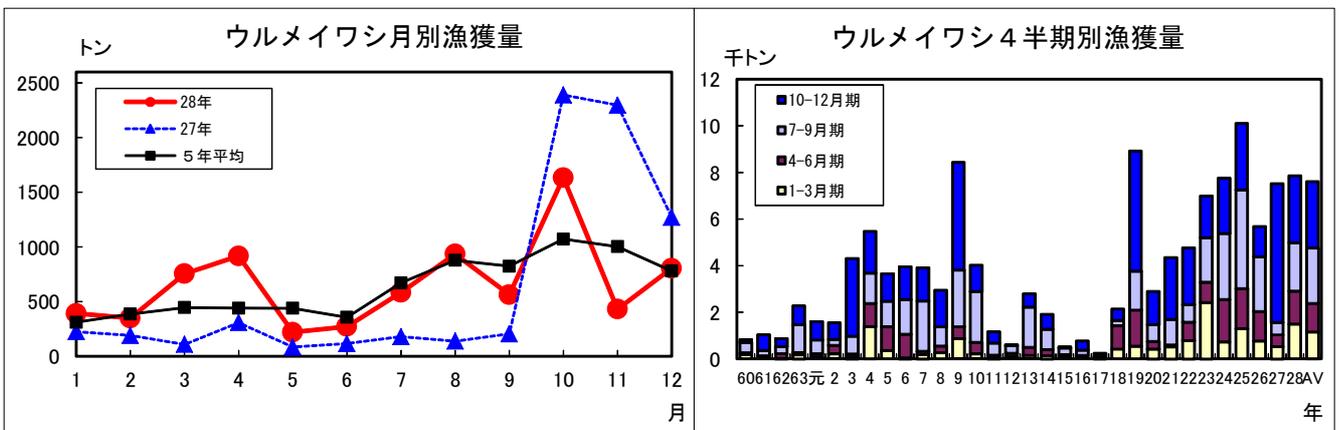


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年（平成 23 ～ 27 年）の平均値(AV)，平成 28 年 12 月 21 日までの水揚量を使用

[カタクチイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成26年は24万9千トンとなりました。

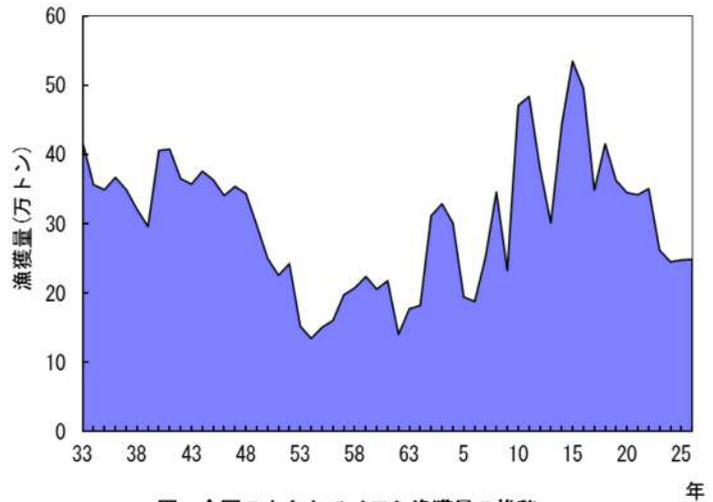


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 県内の平成 28 年 10 ~ 12 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌西，天草沖に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、大羽（平成 27 年生まれ）主体に 890 トンの水揚げで、前年の 86 %，平年の 57 %でした。

北薩海域の棒受網では、川内沖，長島（内海）に漁場が形成され，22 トンの水揚げで，前年の 33 %，平年の 38 %でした。

3. 県内の平成 29 年 1 ~ 3 月期の見とおし

漁獲の主体は，大羽（平成 27 年生まれ），小羽（平成 28 年生まれ）でしょう。

来遊量は前年を下回り，平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は，現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる大羽は概ね平年並に推移しており，小羽の来遊指標と考えられる平成 28 年西薩海域バッチ網春漁の漁況も平年並だったことから，非常に好調だった前年を下回り，平年並になると考えられます。

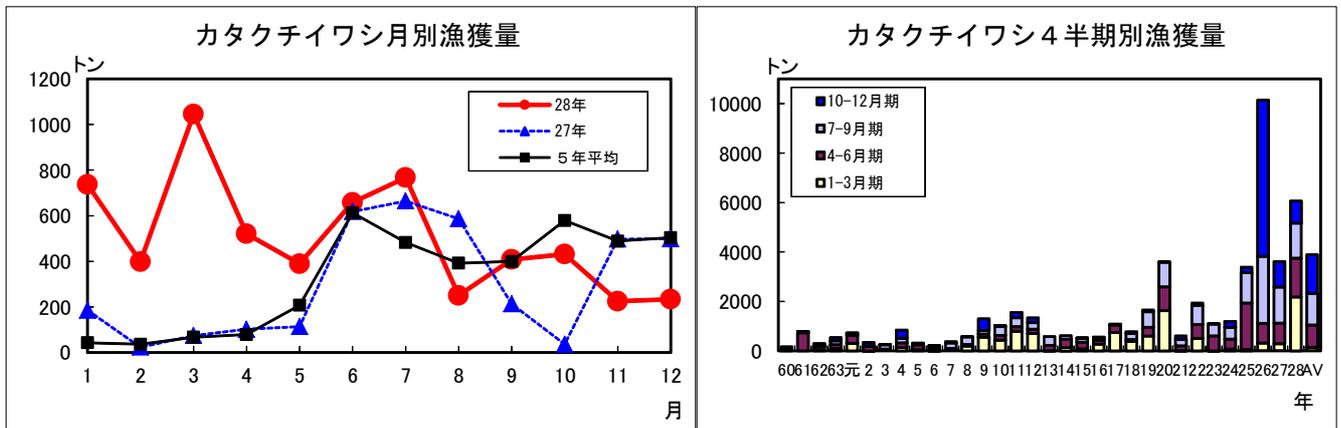


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年（平成 23 ~ 27 年）の平均値(AV)，平成 28 年 12 月 21 日までの水揚量を使用

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後、平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 27 年は 1,563 トンとなりました。

志布志湾海域では、平成 19 年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000 トン前後で増減を繰り返しながら推移し、平成 27 年は 1,406 トンとなりました。

2. 平成 28 年 9 ~ 11 月期の漁況の経過

西薩海域では、カタクチシラス主体に 262 トンの水揚げで、前年の 46 %、平年の 75 %でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に 593 トンの水揚げで、前年の 87 %、平年の 156 %でした。

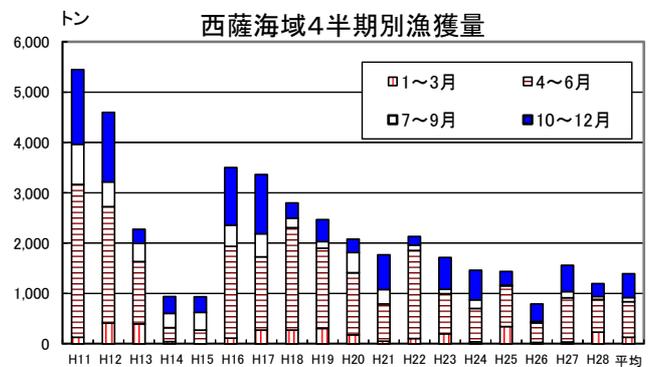
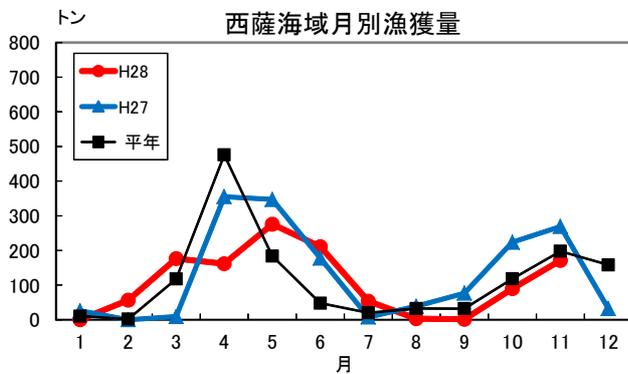


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

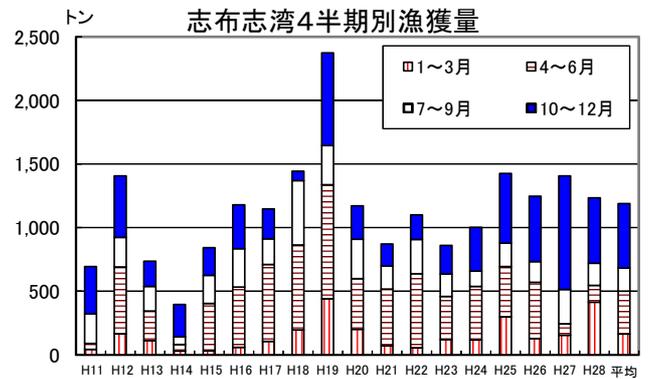
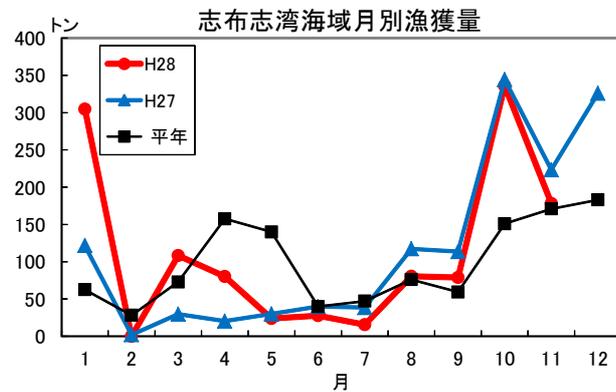


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去 5 年(平成 23 ~ 27 年)の平均値(AV)、平成 28 年 11 月 30 日までの水揚げ量を使用

[イワシ類参考資料]

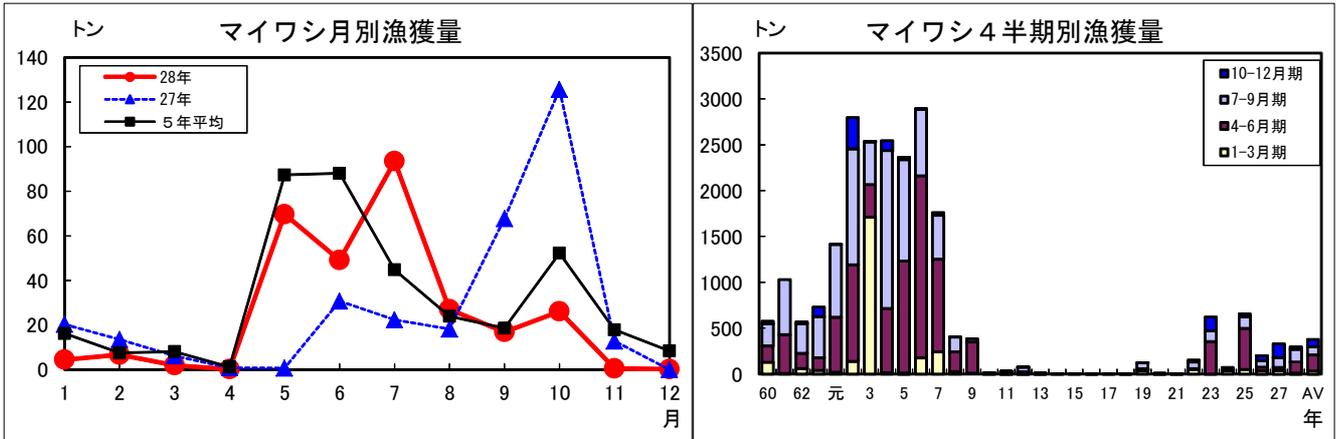


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

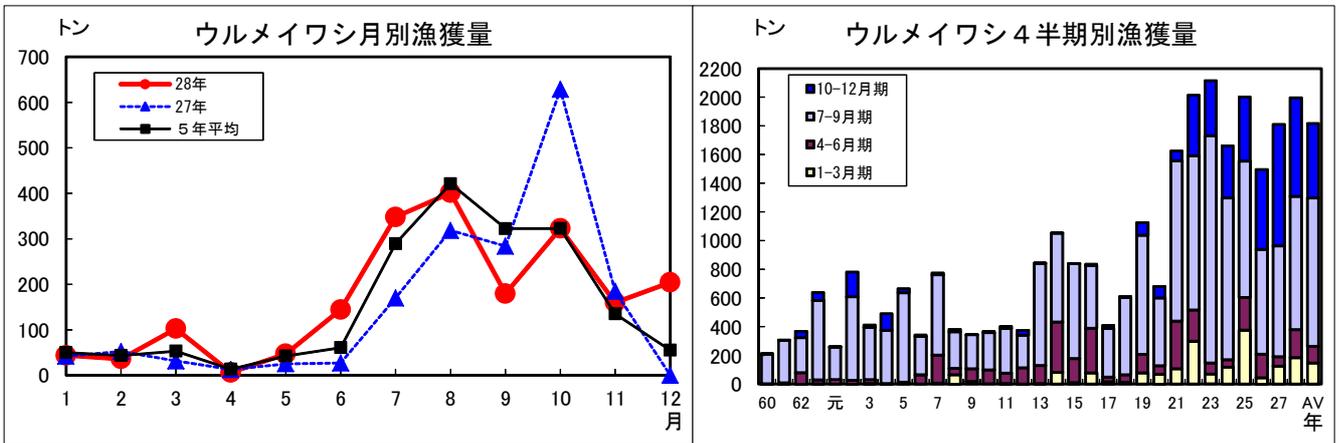


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

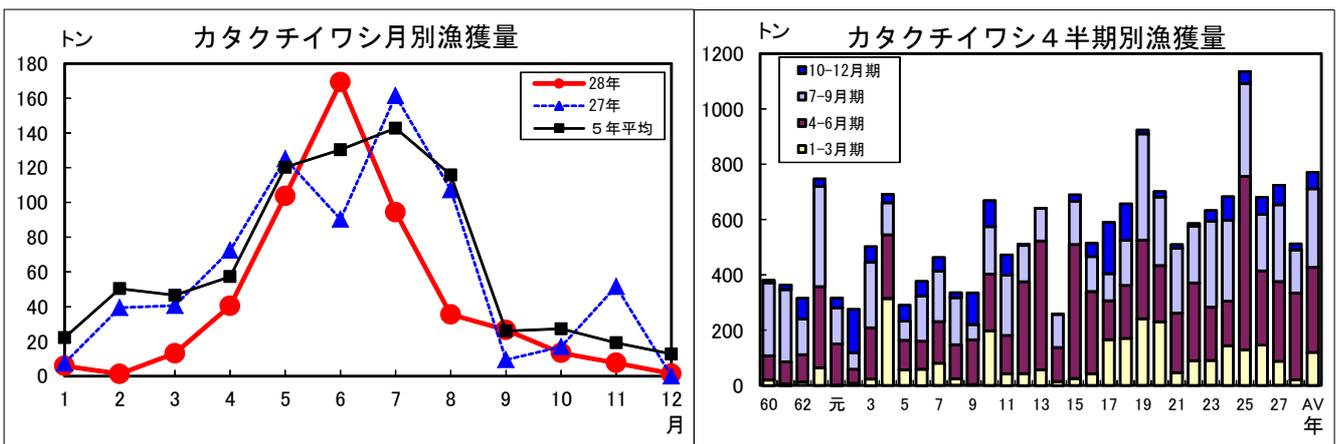


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成23~27年)の平均値(AV),平成28年12月21日までの水揚量を使用

[参考：漁況経過のみ記載]

〈ムロアジ類（クサヤモロ，モロ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

県内の平成28年10～12月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンにピークに急減し、平成6年以降は、1,500トンから4,500トンの間での推移しており、平成27年は1,281トンとなりました。

4港計のまき網では、種子島東でクサヤモロ豆主体の漁場が形成されました。期全体で2,417トンの水揚げで、前年の304%及び平年の172%と好調に推移しました。

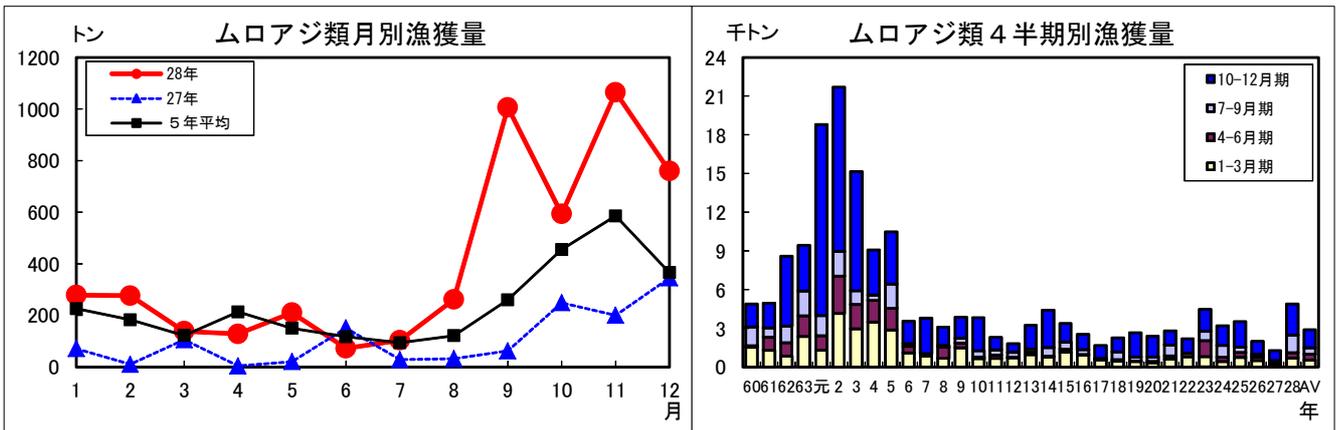


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)，平成28年12月21日までの水揚量を使用

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

県内の平成28年10～12月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンにピークに一旦減少し、平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと一旦増加しましたが、再び減少傾向で平成27年は987トンとなりました。

4港計のまき網では、種子島東，湯瀬で中小，豆主体の漁場が形成されました。期全体で253トンの水揚げで、前年の373%及び平年の59%でした。

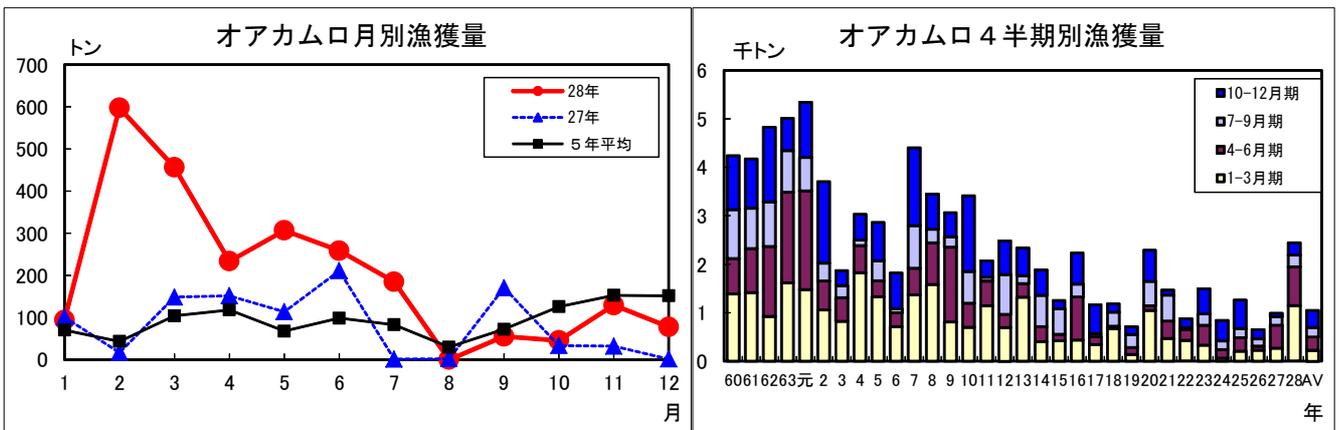


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)，平成28年12月21日までの水揚量を使用

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

県内の平成28年10～12月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、昭和62年から平成元年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成12年から15年に再度ピークを迎え15年には3,150トンと最高を記録しましたが、平成16年以降は低調に推移し、21年は過去最低の94トンとなりました。

その後、低い水準ではあるものの増加し、27年は706トンとなりました。

4港計のまき網では、野間池沖で小主体の漁場が形成されました。期全体で53トンの水揚げで、前年の93%及び平年の42%でした。

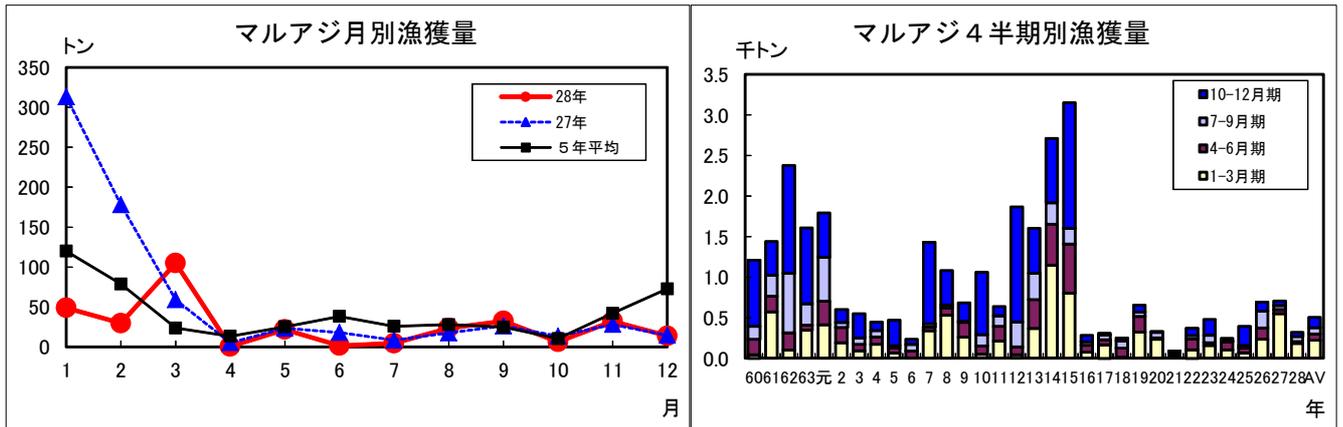


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成23～27年）の平均値(AV)、平成28年12月21日までの水揚げを使用